

校園名：福島大学附属特別支援学校

所在地：960-8164 福島市八木田字並柳71

記載日：平成28年5月19日 記載者：野木勝弘 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

**<教育目標>**

自分を高めようと努力する人  
他人をだいじにしようと努力する人  
社会につくそと努力する人

**<経営方針>** スローガン 「笑顔いっぱいの学校」

- (1) 子ども一人一人の生活の自立をみんなで支援する学校づくり
- (2) 子どもの可能性を見いだし、伸ばす学校づくり
- (3) 体力の向上と健やかな体を育成する学校づくり
- (4) 大学と連携することにより実践研究の質を高め、公立校のニーズに応える情報を発信する学校づくり
- (5) 教職員一人一人がやりがいをもち、目的達成のために学部みんなで知恵と力を出し合う学校づくり

貴校の卒業生の活躍状況について：

**<卒業生の進路>**

- (1) 高等部の生徒の状況や就労等について保護者と教育相談を重ねた上で現場実習（3年間で5回）を行い、卒業後の就労につなげるようしている。
- (2) 就労先は一般企業や就労支援施設等である。生活介護施設で社会参加する生徒もいる。これらの割合は学年によって違いがある。
- (3) 卒業生の中には、就労先で模範的な勤務状況であると認められ、福島職業能力開発研究協議会から表彰される方も多い。

**<卒業生のアフターケア>**

- (1) 就労後しばらくしてから仕事上の悩みをもつ卒業生もいることから、県北障害者就業・生活支援センターと連携してアフターケアも行っている。
- (2) 同窓会が組織されており、年1回役員会が開催される他、学校行事の開催案内をするとかなり数の参加がある。

貴校勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について：

**<本校勤務経験者の情報について>**

- (1) 年1回の旧現職員懇親会の参加確認を通して、本校勤務経験者の動向を確認している。確認できているのは全体の7割程度である。

**<活躍状況>**

- (1) 本校勤務経験者の中には、県教委の幹部、県立特別支援学校・公立小中学校の校長・教頭、県養護教育センターの指導主事として活躍されている方が多数いる。
- (2) 県立特別支援学校に勤務している方の中には、学部主事や研究主任、発達支援相談室担当等の役割を担っている方も多い。
- (3) 公立小中学校に勤務している方の中には、特別支援学級を担任しながら市町村教育委員会の就学指導審議会等の委員を務めたり、特別支援教育関係の研究協議会の中核的な役割を担っている方も多い。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

**<先導的な取り組み>** (4ページのポンチ絵の記号と照合)

**1 参観者のニーズに応える教育研究公開** (図中A)

本校では、研究テーマ「一人一人が自ら学ぼうとする姿を目指して」を掲げ、実践研究を積み重ねている。その成果を毎年6月に開催する教育研究学校公開及び2学期に開催する実践研究会で多くの参観者に授業を公開し研究協議を深めている。その際には、特別支援教育の今日的課題に造詣の深い講師による講演会や教材室見学、資料提供等、参観者のニーズに応じた情報を提供している。年度末には、研究成果を研究紀要にまとめ、県内外の学校に発信している。

**2 文部科学省主催:全国学校体育研究協議会の会場校として授業公開** (図中B)

文部科学省主催の研究大会の特別支援学校分科会会場校として11月11日に体育科・保健体育科の授業を公開する。研究テーマ「生活年齢・発達の段階・障がい特性に応じて運動や課題に楽しく取り組む態度を育てる授業」を掲げ、「動機づけ」「できる状況づくり」「振り返り」に視点を当てて実践研究を進めている。11月には全国から参観に訪れる先生方に質の高い授業を提供できるようにしたいと考えている。

**3 文部科学省委託事業:キャリア教育と就労支援の取り組み** (図中C)

平成26年に文部科学省の委託事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」に取り組んだ。キャリア教育の全体計画や指導計画を実効あるものに改訂し、各学部で活動の内容・方法を工夫・改善した。特徴的な取組として、作業学習でのカフェ(接客)や校外販売会、外部講師による授業等が実践された。また、就労支援体制を整備し、実習先見学や校内実習を経験した上で産業現場等における実習に取り組むようにした。さらに、保護者を対象に施設参観や教育講演会を実施して就労に関する啓発を図ったり、地域の関係機関や協議会のネットワークを生かして児童生徒の自立や就労支援ができるようにした。こうした取組は、報告書にまとめて文部科学省に提出するとともに、教育課程に位置づけて今でも継続している。

**4 KeCoFu推進協議会を中心とした校種間連接の取り組み** (図中D)

KeCoFuとはKey Competencies of Fukushima Fuzokuの略。福島大学附属四校園で求める人間像や育みたい資質や能力及び教育内容について、附属四校園で連携して実践研究を進めることにより、一貫性連続性のある教育を目指すことを目的として取り組んでいる。「自己デザインできる人間」を共通の目標に、「問い合わせる力」「人間関係をつくる力」「自分を見つめる力」を育てるために、「キーコンピテンシー育成」「教科連携」「個別事例」プロジェクトチームを編成して実践を進めている。この取組は、校種間の連携を推進するモデルとして公立学校にも展開できると考えている。

**<特色のある取り組み>**

**1 児童生徒にとって成長の機会となる校外学習** (図中E)

本校は市街地にありながら、周囲には自然豊かな環境が広がっている。こうした地域の環境を生かすとともに、児童生徒の成長を見据えた種々の校外学習を実施している。特に自然体験活動では、小学部は四季に応じた活動ができる場所、中学部は尾瀬、高等部は裏磐梯をフィールドに、それぞれの観点から自然に親しみ大切にする心を育てる活動を行っている。冬にはそりすべりやスキー教室を2回実施し、大自然の中で思い切り活動中で達成感や自己肯定感を味わっている。

**2 地域とともに、仲間とともに楽しむフェスティバル** (図中F)

本校では7月にサマーフェスティバル、11月にふようフェスティバル(学習発表会)を実施している。両方とも地域に広報して多くの住民の方々に参加していただいている。サマーフェスティバルではPTA親部の出店や寸劇、附属小中学校の音楽部の演奏、郷土芸能を通して多くの方々と交流している。ふようフェスティバルでは各学部の発表の他に、教育実習生の劇や卒業生による合唱、作業製品販売会を実施し、多くの方々に楽しんでいただいている。

### 3 過去の教訓を生かした活動

過去に起きた不審者侵入事件を教訓に、安全確保訓練を毎学期の始めに行っている。また、東日本大震災を教訓に、地震や噴火を想定した引き渡し訓練を行っている。特に引き渡し訓練については、知的障がいのある児童生徒を保護者に引き渡すためには種々の課題があったが、実効性のある方法を教職員と保護者で共有することができた。

地域において、現在、貴校はどんな存在であると考えますか：

近年、児童生徒数が減少しているのに対し、障がいのある児童生徒は増加傾向にある。27年度は県北域内だけでも19の特別支援学級が新設・増設された。また、通常学級に障がいのある児童生徒が在籍するケースが増え、特別支援教育の配慮を必要としている学級・学校が増えてきている。さらに、インクルーシブ教育システムの実現に向けて様々な課題をどのように解決していくべきか、合理的配慮や環境整備をどのように充実させるか、本校の教育実践に寄せられる期待はますます大きくなっている。こうした特別支援教育のニーズに応えるために、本校では研究公開の他にも次のような活動を行っている。

#### 1 発達支援相談室「けやき」（図中G）

特別支援学校のセンター的機能として、県北域内の小学3年生までの発達が気になる子供の教育相談を行っている。内容としては、教育相談の他に子供を対象とした課題指導、在籍校を訪問してのケース会議を実施している。27年度の相談は34ケース、のべ114回だった。また、主催事業として講演・演習を中心とした夏季セミナーと、小グループで事例について話し合う座談会（年4回）を実施している。

#### 2 教育実習及び介護等体験（図中H）

教育実習校として特別支援教育を志す学生の指導に当たっている。種類としては、基礎実習（大学3年生、1週間）、応用実習（大学4年生、2週間）、教職実践演習（大学4年生、次年度から教諭や講師として勤務予定者、1週間）がある。福島大学の他に東北福祉大学と福島学院大学の実習生も受け入れている。教員免許取得に必修の介護等体験を行う学生も受け入れている。

#### 3 教育委員会との連携

福島県教育庁県北教育事務所主催の小・中・養護教諭の初任者研修の特別支援学校参観を本校を会場に実施している。35名の小中学校教諭及び養護教諭に対して、3つの学部の授業参観、副校長と進路指導主事の講話、研究協議の機会を提供した。福島市の就学指導審議会に3名の教員を派遣している。また、巡回教育相談も担当している。

#### 4 地域連携事業

次の研究会・協議会等に所属し、役割を担当している。

福島地区特別支援教育研究会（合同卓球大会の会場校、広報部部長）

福島職業能力開発研究協議会（幹事校として事業の企画・運営）

県特別支援学校体育連盟スポーツ大会（幹事校として大会の準備・運営）

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

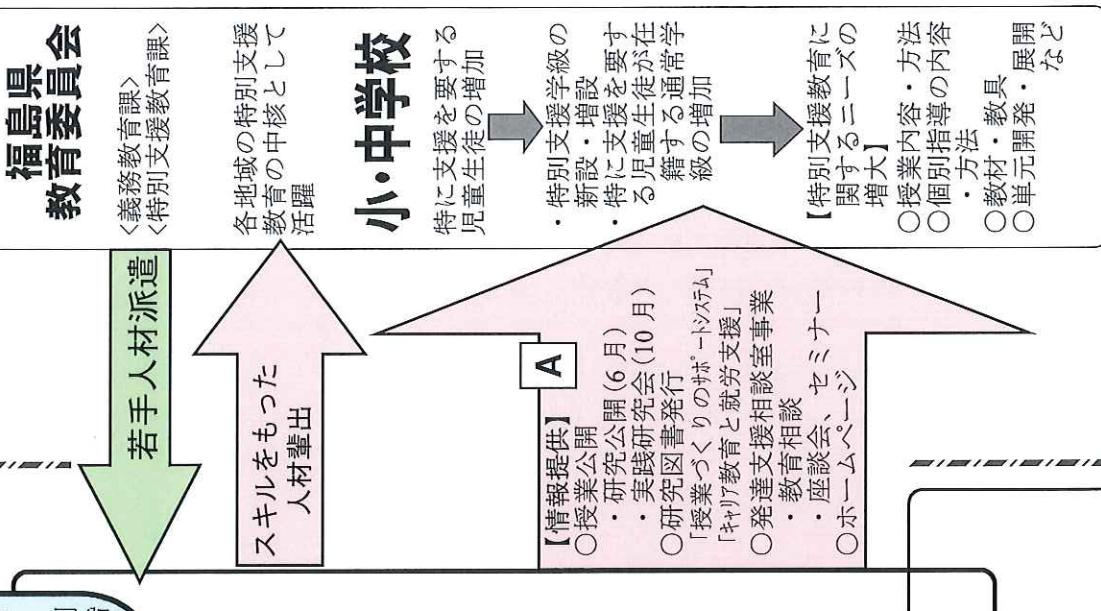
特別支援教育のニーズが高まっている中で、本校は特別支援教育のモデル校としての役割を果たすとともに、特別支援教育の知識と経験を兼ね備えた教員を輩出してきた。公立学校では今後、単元を構想する能力や子供の内面を理解する姿勢、保護者の信頼を得る態度等、多岐に渡るスキルを備えた人材が必要になってくる。また、社会の変化に応じて教育課程を進化させていく必要がある。こうしたことから、國の方針や施策等を実際に学校で具現していくことができる附属学校は、今後ますます必要であると確信している。

# 福島大学

## 福島別の大支援要

### 附属特別支援学校

### 地域社会



### 【可能性追求型の研究】

**A** 【情報提供】  
○授業公開  
・研究公開(6月)  
・実践研究会(10月)  
○研究図書発行  
「授業づくりのサポートシステム」「キャリア教育と就学支援」  
○発達支援相談室事業  
・教育相談  
・座談会、セミナー  
○ホームページ

**B** <研究テーマ>  
一人一人が自ら学ぼうとする姿を。  
を目指して、自然のすばらしさを学ぶ。  
**C** <保健体育領域の活動>  
児童生徒の実態に応じたフィールドでの体験を通して、自然のすばらしさを学ぶ。  
で、体力向上と肥満解消運動をする中で、協議会福島大会(28・11・11 全国学校授業公開)

**D** <音楽活動>  
音楽のある生活、附属小・中学校の合唱・合奏部との交流

**E** <作業学習(力フェイ)>  
キャラリア教育の趣旨を活かした活動、作業学習の工夫

### 発達支援相談室「けやき」

各地域の特別支援教育の中核として活躍  
特に支援を要する児童生徒の増加  
・特別支援学級の新設・増設を要する児童生徒の増加  
・特に支援が必要な在籍者の増加

### KeCoFu推進協議会

【特別支援教育に関するニーズの増大】  
○授業内容・方法  
・個別指導の内容  
○教材・教具  
○単元開発・展開など

### 附属四校園協議会

### 附属幼

### 附属中

### 附属小

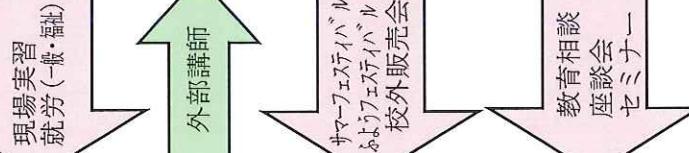
H 教育実習を  
キャンパスにし  
た活動  
大學生の  
ボランティア

校訓：自分を高め他人をだいじに社会につくす。

＜学校経営スローガン＞  
笑顔いっぱいの学校

### 【特色ある教育活動】

**F** <自然体験活動>  
児童生徒の実態に応じたフィールドでの体験を通して、自然のすばらしさを学ぶ。  
**G** <保健体育領域の活動>  
児童生徒の多様な学習の「動機」にかかる視点  
・児童生徒の学習の「動機」を捉える。「動機」を検証する。視点  
・児童生徒をいかわる視点  
の高まりによりにかかるできる効果  
の授業生徒が「わかるができない指導・  
的なる授業べくよりの仕方にする。  
支援方法を明らかにする。



○県北障がい者就業・生活センター  
○ハローワーク  
○障がい者職業センター  
○相談支援センター  
○吉井田地区  
○八木田町内会  
(特別支援学校への理解と支援)  
○幼稚園  
○保育園  
○こどもサービスなど

960-8164  
福島市八木田字並柳71  
TEL 024-546-0535  
FAX 024-546-5480

<http://www.ash.fukushima-u.ac.jp>  
[fuyo@ash.educ.fukushima-u.ac.jp](mailto:fuyo@ash.educ.fukushima-u.ac.jp)